

カミツキガメ

カミツキガメ (*Chelydra serpentina*) カミツキガメ科 原産地：北アメリカ、中部アメリカ

導入経緯：1960年代から、米国よりペットとして導入され、その後、遺棄されたと見られる個体が全国各地で確認されている。

特に外来生物法の施行後、各地で目撃情報が増えている。

生態：肉食傾向が強く、魚類、両生類、小型のカメ類、甲殻類、貝類、水生昆虫等を捕食する。様々な動物の死骸や、藻類、水草、陸生植物の果実などの植物質も食べる。

年に一度産卵し、産卵数は20～40個、稀に100個を超えることがある。原産地では上位の捕食者である。

背甲長約50cm、34kgまで成長する。

【調査結果概要】

文献調査では確認されなかったが、アンケート調査により福島市、新地町、郡山市、いわき市の4市町における目撃情報が寄せられた。確認時期については福島市では3～5年前に、郡山市といわき市では1～2年前に、新地町では今年を目撃情報となっている。

いずれも飼養されていた個体が逃亡・遺棄されたものと考えられており、現在のところ野外での繁殖事例は確認されていない。

最近の本種の野外での確認については、外来生物法施行に伴う飼養手続きの煩わしさによる遺棄に起因していると思われる。

こうしたことから、外来生物の野生化による被害、在来生物への影響などについて、県民に広く普及啓発を図っていくことが重要である。

アンケート調査によりカミツキガメが確認された市町村

